

## 梅窓院通信

No.116

2022/01/01

青山



中島住職(右)と中島副住職。

## 住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成

新年明けましておめでとございます。

令和も四年目を迎えます。新型コロナウイルスとともに歩んでいるように感じる令和ですが、本誌がお手元に届く頃には穏やかに年始を迎えられることを祈念するばかりです。

さて、令和三年の秋のお彼岸は新型コロナウイルスの感染拡大が少しずつ落ち着いてきたことで、境内はコロナ禍前と変わらない賑わいを見せました。皆様、待ち侘びたお墓参りとなったようです。多くの方がお焼香され、YouTubeのライブ配信の視聴者数も過去最高となりました。

この秋彼岸会法要は梅窓院の中でも大きな法要の一つですが、今回の導師は令和二年に就任した副住職が務めました。当院には多くの僧侶が仏事・法事に携わっており、副住職にとっては先輩ばかりの中での導師、少し緊張もしていたようです。また、檀信徒の皆様の葬儀式や回忌法要での導師も務め始めました。こうした若い副住職の導師姿を見て、「住職もついに世代交代か」と思われた方もいるかもしれませんが、まだ交代は先の事となりそうです。ですが、いつの日にかくる法灯継承に備えて、とご理解下さい。

その副住職と一緒に本誌の特集に出ています。誌面から梅窓院の変遷をお読み取り頂ければ幸いです。

最後に、護寺費・年会費の改定のお知らせをさせて頂きました。私が住職になってお寺の維持のために新設したのが護寺費です。新本堂棟が完成して、十八年が経ち、はや十九年目を迎えますが、各種設備の老朽化が進行しています。具体的には空調設備など法事や行事に必要な設備機器の交換等になります。

詳細は別紙に記しました。コロナ禍の芳しくない世情下、誠に心苦しい限りですが、何卒ご理解頂きますようお願い申し上げます。

「護寺費・年会費改定のお願い」が8面に掲載されています。別紙と併せて必ずご覧下さい。

正月気分と寒の内

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦

賀

正・賀春、新春初春のめでたさの中で、今年もまず健康第一・無事平安でありたい、安寧清祥に生活し合いたい。

しかし私自身、今現にこうして老いの坂を登りながら、新年正月とはいえ、冬の寒さ、寒の内の寒気寒風はやはり身と心にこたえるものである。寒烈・寒苦に負けないで耐えしのぎ、寒威に打ち克つ精進努力を心がけたい。

そこで正月気分のおだやかな豊かさにくつろぎながらも、冬のきびしい寒さをしつかりと受けとめるために、一月松の内と寒の内の俳句鑑賞としたい。

新年正月の淑気はめでたさの中にも身と心の引きしまるしめやかさがあり、そこにまた新しい年を祝う晴れがましさが快くやすらかである。歳時記からまず謹賀年頭の仏教句をいくつか拾ってみよう。

注連はるや神も仏も一つ棚 (みどり女)

咽喉仏見せたる吾子の初笑ひ (泰)

阿弥陀さま影を大きく初燈 (無涯子)

謡初いつもながらの仏前に (たけし)

上人の吉書の仕度次の間に (静雲)

注連飾りは清らかな浄域を区切る縄張

りであるが、新年の年飾りには魔除け・厄除けの願意が殊更に強い。阿部みどり女は「駒草」を創刊主宰して、「ホトトギス」の長谷川かな女や高橋淡路女と交流を持ち、女流俳人として確かな足跡を残した人である。上野泰は高浜虚子の六女章子と結婚し、「ホトトギス」の中でも新しい感覚を發揮した独特の句風を持った人で、我が幼子ののど仏に着目した眼力に、初春のなごやかなしあわせぶりが重なっている。

武田無涯子は奈良県桜井市の浄土宗遣迎寺住職であった人で、同じ浄土宗の高名な布教家野島無量子に導かれて、阿波野青歌主宰の「かつらぎ」で長く活躍した。池内たけしは虚子の甥で、宝生九郎の弟子として能楽も一流であった。平淡な句風であるとされるが、この句なども初謡を例年のごとく淡々と仏前で営みながら、そこに供養の心が静かに置かれているのである。河野静雲は福岡市の浄土宗の寺に生まれ、時宗称名寺に養子として入り、本山遊行寺の執事などを務めた人である。遊行上人のお書初に、まさに高雅嚴肅な淑気が満ちる。

く一年中でいちばん寒い時季とされてきたのである。極寒・厳寒・酷寒のつらさ、きびしさに懸命に耐え忍んでこそ、やがて春の暖かさは訪れるのである。

きびきびと万物寒に入りけり (風生)

大寒のよき眠りより覚めにけり (林之助)

何ともなき足大切や寒の内 (かな女)

釘うてばひびく身内を寒と言はむ (綾子)

私の好きな寒の句を並べてみた。大家富安風生の句はなんととっても「きびきび」という初五が効いている。つつましやかな作風の八木林之助は、大寒の日の大いなる目ざめを静かに詠んだのである。長谷川かな女と細見綾子の女流の二句は、私の実感である。この両句を受けて、私は、「寒の内肩・腰・膝に痛み問う」と作句した。

(大正大学名誉教授)

秋彼岸会法要 9月23日(木)



副住職が導師を務め、多くの方がご先祖様の供養に訪れました。

文化講演会 10月23日(土)



宇高良哲上人による文化講演会。

十夜法要 11月20日(土)



ご先祖様へ届くよう合掌礼拝。



# 修正会

2022年1月1日(土)

法要 午前10時～ 2階 本堂



## 修正会とは

お正月にみんな一緒に一つ歳をとる、というのは昔の話ですが、家族や親戚一同で新年を迎えるのはいいものですね。国家安泰と五穀豊穡を祈念する修正会は新年初の行事で、日本では天平時代の頃から行われていたようです。

**絵馬について** 新年のお参りに来て頂いた方にお配りしている絵馬は、元日のみ1軒に1体のお渡しとさせて頂いております。

2体以上ご希望の方は事前に文書(FAXかハガキ)でお申し付け下さい。2体目から1体1000円でお譲り致します。

**曆について** 各檀信徒の皆様にご同封させて頂きました。2部以上ご希望の方はこちらも文書(FAXかハガキ)にてお申込み下さい。

2部目から1部1000円でお譲り致します。

※感染予防のため、お席のご用意はございません。また、マスクの着用、手指の消毒・除菌にご協力をお願い申し上げます。

※元日に温かいお茶の配布を致します。なお、数に限りがございますので予めご了承下さい。

※お雑煮の振る舞いは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止と致します。

法要の様子をライブ配信予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.baisouin.or.jp/>



梅窓院ホームページのQRコード ▲

本年の修正会法要は、檀信徒の皆様にお焼香頂けます。  
大切なご供養にもなりますので、宜しければ本堂へお参り下さい。

## 新年によせて

お経のお言葉④「神明記識」(『無量寿経』下巻)

～お天道様はみてる～

年の改まる頃を迎えましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、お経典の一語を題材にお話しさせていただきます。『無量寿経』の第四回でございます。今回も私共が拠り所とする『無量寿経』より、「神明記識」を取り上げます。簡単にいうと、「お天道様がみてる」、まさにこのことです。「神明」とは『無量寿経』では詳しくは説かれませんが、神様のこと。「記識」とは記し、認識すること。私には、閻魔様が閻魔帳にメモするような光景が浮かびました。

では何をメモしているのかと申しますと、人間の悪事です。『無量寿経』には人間の悪業がそのままに説かれております。五種の悪が説かれ、それぞれにこの世で受ける報い(痛)、来世に受ける身を焼かれるような罰(焼)が説かれます。今号で最初の二つを紹介し、次号に続きます。

### 第一悪 弱肉強食の悪

諸々の鬼神から人間、地を這う虫にいたるまで、弱肉強食の本能のままに無慈悲に殺し合い、強者が弱者を屠り、食すのがありのままの現実です。人間も例外ではありません。ですから、人間の暮らしのために、失われる全ての命へ供養と感謝の気持ちをはいていけません。

### 第二悪 不忠偷盗の悪(※偷盗…人のものを盗むこと)

世間の人々、親子兄弟夫婦などは義理も順法精神もなく、ほしいままに快楽を貪って、心に邪な思いをいだきながらも、口では巧妙にへつらつて、お互いに欺き合います。また、国のリーダーが正しく見定めなければ、巧妙な口先の臣下に騙され、親が子に騙され、兄弟、夫婦など世の中の人々が皆、騙し合ってしまうのです。人々は思うままに悪事を欲して、妄りに法を犯し、心に常に他人の利益を盗みたいと願うのです。

さて、まもなく修正会法要を迎えます。一人ひとり、この一年の悪事を懺悔して次の一年より善く生きることと天下泰平を願って勤修いたします。本年も昨年同様、おせちとお雑煮のふるまいは中止させていただきます。お焼香のご案内のみとさせていただきます。引き続きYouTubeでの配信も行っております。ご一緒にお十念いただけますと幸いです。



住職・副住職インタビュー



努力家で何事にも熱心な長男・真紹副住職を優しく見守る真成住職。

墓苑全般については特に気を遣われてくれたように思えます。

**住職** お寺は檀信徒様あつてのもので、皆様のご先祖が眠るお墓をより良いものにできるように常に意識してきました。そして、お墓参りをしやすいようにとバリアフリー化など墓苑整備にも積極的に取り組んできました。

**◆檀信徒様は以前より増えたと聞いています。そうした細かい配慮が実を結んだのですね。行事も目白押しですね(左表参照)。新本堂棟に建て替えたと共に各種施設も充実し、法要や行事を定期的に行うことで、檀信徒様も増えたという流れが見えますね。**

副住職はこうしてお寺に何を足し算していきたくですか。

**中島真紹副住職(以下副住職)** 私は住職が手を加える前の梅窓院をよく知りませんので、いま改めて聞きながら驚いています。

**◆住職に整えていただいた伽藍(がらん)、諸堂を活かし、布教に繋げて参りたいと思います。法然上人が遺言された「お念仏の声のするところはみな私の遺跡地です」のお言葉のままに、浄土宗の教えをしっかりと布教し、念仏の大道場とするのが私の目標です。まずは、毎朝八時二十分から二階本堂にて勤修しております朝の勤行に、檀信徒の皆様にもう少々お参りいただき、多くの方とご**

**編集部(以下◆)** 令和も四年になり、昨年は中島真成住職が住職就任三十年目を迎え、そして就任二年目の中島真紹副住職が秋彼岸会法要で導師を務められました。こうしたことを受け、梅窓院にも新しい風が吹いている今、お二人そろってのインタビューを企画しました。

**◆住職と副住職の対談を『青山』で特集するのは、平成二十二年の新年号(注)以来、およそ十二年ぶりです。よろしくお願ひ致します。**

まずは住職、就任三十周年おめでとございます。

**中島真成住職(以下住職)** もう三十年ですか。過ぎてしまえば早いものです。

**◆住職になられてから、どのようなお寺を目指してきたのでしょうか。**

**住職** 青山という場所にふさわしいお寺を目指しました。本堂を含めた施設の充実化、墓苑の整備。そして行事を増やし、檀信徒様に親しみを持ってもらえるようにしました。

**◆事業一覽(左表参照)にまとめてみましたが、様々なことをされてきましたね。中でも**

なかじま しんじょう  
**中島 真成**  
住職

昭和32年6月13日、埼玉県杉戸町生まれ。  
平成3年より梅窓院の第25世として住職を務める。





**【真成住職による事業一覧表】**

●平成12年より開始した本堂復興事業により、新しく整備された施設  
本堂 / 観音堂 / 法堂 / 祖師堂 / 2階・5階客殿 他



隈研吾氏設計の本堂棟

●バリアフリー化をはじめとした墓苑整備実績

最勝宝塔(永代供養墓) / 梅林苑(樹木葬墓地) / 無礙光塔(ペット供養塔) / 梅窓院の歴史壁面の制作 / 蓮池 / 水苑 / パラ花壇 / 桜の木の植樹 他



蓮池を囲む八角形の墓所

**【梅窓院の年間行事一覧】**

※現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部中止しているものがございます。

- 1月:修正会法要
- 2月:念仏と法話の会
- 3月:春彼岸会法要・寄席・物産展
- 4月:花まつり
- 5月:大施餓鬼会法要
- 6月:開山忌法要・能楽奉納  
念仏と法話の会
- 7月:盂蘭盆会法要
- 9月:秋彼岸会法要・寄席
- 10月:念仏と法話の会
- 11月:十夜法要・芋煮会

写経  
仏教講座  
文化講演会  
音楽コンサート 他

一緒にお念仏をお称えしたいと思っております。  
◆なるほど。ところで、副住職は僧侶になる前には一般企業に勤められていた経歴をお持ちと伺いました。  
副住職 はい、僧侶になる前は寺院とは関わりの無い会社に勤務していました。ですが実家でもある梅窓院の今後が気にかかり、僧侶の資格を取得しようとな念発起しました。  
◆お坊さんという仕事はいかがですか。  
副住職 とてもやりがいを感じています。特に自分の読むお経で皆様に喜んで頂けた時は嬉しかったですね。  
◆秋彼岸会法要をはじめ、現在は葬儀などでもお導師を務められていると聞きました。大きな役割を担うことに関してプレッシャーはありましたか。  
副住職 あまり緊張はしませんでした。情勢上、法要中は焼香のみで着席による参列はご遠慮頂いている状況でしたので、また以前のように参拝される皆様のお顔を直接拝見できる日が来ることを祈っています。

◆この『青山』でも行事に関するコラムを書かれています。『浄土宗新聞』令和三年十月号にも寄稿されましたね。物を書くのは好きですか。  
副住職 はい、好きですね。『青山』の執筆も毎号どのようなことを檀信徒様にお伝えたいか、しっかりと考えて原稿の作成に取り組んでいます。  
◆副住職は勉強熱心と聞いていますが。  
副住職 もちろん自分でも勉強をしています。梅窓院が属している浄土宗東京教区城西組の青年会の活動で、知識豊富な方々に色々と教えてもらっています。  
◆住職の副住職時代はいかがでしたか。  
住職 先代が病を患っており、入退院を繰り返していたこともあって、気が付いたら法要や葬儀、棚経を自主的に手伝っていました。その頃は隨身（ぶしん）といって、住み込みでお坊さんを目指す学生さんが何人もいたので、手取り足取り指導されながら一人前に育ててもらいました。  
◆この『青山』にも梅真会（ばいしんかい）（注）会員として多くの僧侶にご登場頂きましたね。  
最後に、住職としては副住職へ、どのタイ

ミングでバトンタッチをされるかを考えてはいますか。  
住職 まだ、何とも言えませんね。  
梅窓院に関わる仕事をしている僧侶や職員が多数います。ですので、寺院の運営面にもより深く関わることとなります。そうした色々なことの兼ね合いをみながらになります。まあ、しばらくは住職の役割も少しずつ経験してもらいながら、副住職に慣れてもらうことになりそうです。  
副住職 はい、まだまだ身につけることも多いので、皆様とのお縁を通じて沢山のことを学ばせて頂きたいと思っています。未熟な身ですが、一生懸命精進します。  
◆今後、副住職は住職のリーダーシップ性を学んでいくことになりそうですね。  
本日はお忙しい中、お時間頂きありがとうございます。ありがとうございました。

(注)過去の『青山』バックナンバーは梅窓院公式ホームページでお読み頂けます。  
(注)梅真会  
梅窓院へ隨身や職員として勤務していた僧侶の会。



なかじま しんしょう

**中島 真紹**

副住職

昭和63年7月21日、東京都港区生まれ。  
平成26年に梅窓院に入山。現在は梅窓院通信『青山』にて行事に関するコラムの執筆もを行っている。



新型コロナウイルス感染症で大きな影響を受けている飲食店。法要や葬儀の後席、精進落としの食事を取り扱う仕出し屋さんも苦勞されています。今回は梅窓院にお弁当などを届けて頂いている株式会社エムエチケイワールドフーズ(懐石料理 塚越)の本社ビルを訪れました。

◆本日はよろしくお願ひ致します。

代表取締役社長(以下 ) はこちらこそ、よろしくお願ひ致します。『青山』No.98新年号では「天ぷら つかごし」を紹介して頂き、ありがとうございました。

◆今回は梅窓院もお世話になっている仕出し料理業のお話を伺いに参りました。早速ですが、会社の成り立ちからお聞かせ下さい。

はい、もともとは両親が四谷・左門町で始めた食堂が出发点です。

◆食堂からスタートですね。

夫婦でやっていた町で人気の食堂でしたが、昭和39年の東京オリンピックに合わせお店を広げ、模様変えをした途端、お客さんが激減。このままではいけない、と母の弟も手伝いに入り、エムエチケイ給食センターを設立しました。

◆エムエチケイという社名の由来を教えてください。

父の名前が で「M」、母の弟が で「H」、母の名前が で「K」、頭文字をこの順に並べるとMHK(エムエチケイ)。よくNHKと間違われます(笑)。

◆なるほど、創業者の3人のお名前から取られたのですね。

ある意味わかりやすいかと思います(笑)。

このエムエチケイの業績が順調に伸びて5年で株式会社になり、その後ケータリングも始め、私が40年前に入ってエムエチケイ給食センターからエムエチケイワールドフーズに社名を変更しました。

◆社長の「F」は入れなかったのですか。

はい、MHKF(エムエチケイエフ)では長すぎたので入れませんでした(笑)。

◆本社が新宿区富久町という、とてもいい所がありますが、ここでは仕出し料理を主に作られているのですか。



寿司専門の調理場では職人が心を込めて握っています。



本社ビルの前で微笑む 代表取締役社長と住職。

はい、自社ビルです。各階で分かれて作業をしており、例えば2階の調理場では和食、他の階で寿司・刺身を各専門の職人が誠心誠意作っています。

◆なるほど。まさに仕出し専用のビルですね。取引先はどこになるのでしょうか。

葬儀社さんとお寺が9割です。他にイベント業者や町会などもあります。やはり仕事が多いですね。

◆どのような苦勞がありますか。

お通夜などでの急な追加注文を依頼された時は大変ですが、本社の足回りの良さで助かっています。また、20年前に水産会社を設立し、市場からの直接仕入れで業績が更に良くなりました。

◆最後に梅窓院とのご縁の始まりを教えてください。

梅窓院さんに入居されている葬儀社さんにご住職をご紹介頂いたのがきっかけでした。

◆そうでしたか。これからも美味しいお弁当やお料理をお願いします。

もちろんです。

◆本日はありがとうございました。

誠実な人柄で  
社員からの人望も厚い  
代表取締役社長。



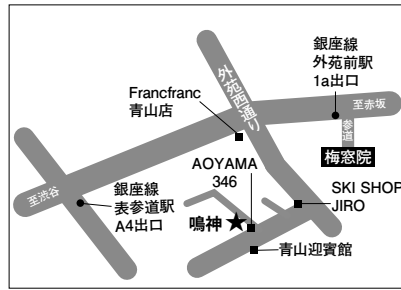
鳴神なるかみ

今回は梅窓院から徒歩6分。閑静な住宅街のなかにある隠れ家レストラン「鳴神」をご紹介します。ここでは和とフレンチの融合「フレンチジャポネーゼ」の独創的で洗練された逸品を楽しむことができます。

店内はガラス張りのため、季節の移り変わりを感ぜながらお食事を楽しめます。



店内はガラス張りのため、季節の移り変わりを感ぜながらお食事を楽しめます。



短縮営業時間  
ランチ / 12:00~13:00(入店)  
ディナー / 18:00~21:00(入店)  
定休日/要予約・不定休  
席数/9席  
住所/東京都港区南青山3-4-6  
AOYAMA346 102  
TEL/03-6447-4866



ランチは6,000円~12,000円の3種類あります。  
※掲載写真は、6,000円のコースでございます。

な包丁さばきや調理風景を眺められるのも魅力の一つです。器も一点一点テイストが異なり、至るところにシェフのこだわりを伺うことが出来ます。

お料理は魚を中心に、フォークやナイフではなくお箸かスプーンで頂くので、気負わずリラクセスできるところもお勧めです。

締めめの炊き込みご飯は、全国各地から仕入れた旬の食材を楽しめるだけでなく、残った分はお土産として頂けるので、お家に帰ってからも余韻に浸ることが出来ます。

法要の後席や、お墓参り後の普段使いから、記念日など特別な日にも上質な時間を過ごせます。居心地が良く、オーナーシェフとお話しも楽しめるので、中島住職もお勧めの一軒です。

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、店舗の営業時間が変更となる場合がございます。最新情報は店舗まで直接お問い合わせ下さい。

飲食店を経営されている皆様へ

「青山散歩道」コーナーにて掲載にご協力頂ける飲食店を募集しております。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎特選

○寝たきりの母の手ぬくし貴船菊

◎入選

○実山椒の痺れ後引く夕餉かな

○地を這つて木を這ひ登る南瓜蔓

○梨の届きて故郷を懐かしむ

○鯛食べ自分自身も脂乗る

○日が暮れて虫の合唱始まりぬ

○消えさうでまだ少しあるいわし雲

○朝刊のチラシは薄く小鳥来る

○逆光の窓辺の瓶に吾亦紅

○山葡萄熊の爪痕残る木に

◎選者詠

○卓に置くどんぐり四つあとひとつ

◎ワンポイントアドバイス

こしは金木犀が一度咲きました。そのように近ごろは自然がおかしくなっていて、季語では秋の木樫が夏の間に咲くなど、歳時記と自然が合わなくなっています。ここで俳人の間にいろいろ考え方が出てきます。あくまで歳時記通りという人と自然に従うという人と。わたしはいわゆる「嘯目主義」で、目の前にそれがあればそれを詠んでいいという考えです。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「冬の季語」でご自由にお詠み下さい。1月4日(火)を締切、令和4年3月発送の『春彼岸号』にて発表致します。郵送・FAX・メールのいずれかの方法で、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。  
〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38  
梅窓院「青山俳壇」投句募集係  
FAX:03-3404-8436(青山文化村)  
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室  
電話03-5368-1870

第八十五回  
食は命

食養研究家  
武鈴子

腎を助け精をつける  
「ごぼう」

お正月料理の1つにわが家では「ごぼうの昆布巻き」がありました。白身魚とごぼうに、人参の赤色が加わり、見ても美味しそうな昆布巻きを母は毎年作ってくれました。私はごぼうの香りが好きで、子どもの頃、この昆布巻を喜んで食べていたのを思い出します。

ごぼうを食用とするのは、日本とかつて日本が統治していた朝鮮半島だけ。中国や欧米では、古来より薬として用いられてきました。ごぼうは、熱を冷まし、炎症を鎮め、解毒し、体内の余分な水分を排出する働きに優れ、発熱、咽頭痛、できもの、歯痛、むくみ、咳、痰、めまいなど、幅広い効用をもっています。

古くから「ごぼうを食べると精がつく」といわれてきましたが、これも現代の科学によって明らかになりました。水溶性の食物繊維イヌリンが精力を司る腎機能を高め、アミノ酸の一種であるアルギニンが、性ホルモンの分泌を高めて、精子の数を増加させることがわかったのです。中医学では、冬は腎が衰えやすい季節とされていますが、腎の働きを補って精をつけるためにも、ごぼうは最適な食材なのです。

おせちの「祝い肴三種」といえば、関東では、「数の子、ごまめ、黒豆」ですが、関西では「数の子、黒豆、たたきごぼう」とか。ごぼうは地中に長く根を張ることから、豊年と息災の願いがこめられているといい、また根づく野菜なので、家の土台がしっかりとるようにとの願いがこめられているとか。腎を助けるごぼうを食べて精力増強を!



## 梅窓院よりお知らせ

### 護寺費・年会費の 改定のお願い

お寺を守っていくための費用、護寺費・年会費の改定のお知らせをさせていただきます。  
梅窓院の護寺費は1998年、年会費は2005年以來の改定となりますが、この度の改定は寺院の維持管理のためとなります。  
詳細につきましては別紙を同封いたしましたので必ずご覧ください。  
今後とも檀信徒、関係の皆様へ寺院を気持ちよくお使い頂けるよう最善の努力をしまいる所存であります。  
皆様のご理解、ご協力を頂きたくお願い申し上げます。

※護寺費・年会費をお納め頂いている方の方に別紙を同封させて頂きました。(最勝宝塔会員・信徒会員は今回の改定の対象外です。)

## 梅窓院のお墓とペット供養の窓口

### ジャパンエキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

『青山』をご覧になっている皆様、今年もよろしくお願ひ申し上げます。昨年の新年号の誌面を読み返していたら、墓苑のご案内はリモートではできないと書いてありました。実は今はZOOMでご案内もできるようになっています。一人では無理ですので、スタッフ数名がカメラを持って一緒に墓苑内を右往左往していたら、ZOOMご案内中です。思いのほかカメラが重たくて結構難儀しています。

さて、梅窓院内に樹木葬墓地があることをご存じの方は多いと思いますが、お檀家様からのお問い合わせが実はとても多いのです。奥様のご実家、ご親族等々、うちのお墓には入ることはできないけれども……、と仰って樹木葬墓地に改葬される方が増えました。お参りもご自宅のお墓と樹木葬墓地と両方のお参りが一度で出来ると仰って頂くと、私共も嬉しい限りです。

同じようなお悩みなどございましたら墓苑部までお問い合わせ下さい。最後になりましたが、令和4年が良い年になるよう願っております。  
(墓苑部: 森)

## お檀家さんに伺いました

令和3年 文化講演会にて

### 『楽しい時間を過ごせました』

今回の文化講演会は『青山』で知り、増上寺のお話が出るということで参加をしました。増上寺は日ごろから朝の鐘を聞きに行っている身近なお寺なので、講演内容はとても興味深く、参加できて楽しかったです。特に気になっていた言い伝えを宇高先生が歴史的証拠を交えながら説明して頂けたことが嬉しかったです。  
『青山』は毎号読んでいて送られてくるのを楽しみにしていますので、これからも頑張ってください。

## 令和4年 年間行事予定

※予定は変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

◆修正会法要	1月1日(土)
◆春彼岸会法要	3月21日(月)
◆はなまつり	4月2日(土)～8日(金)
◆大施餓鬼会法要	5月21日(土)
◆開山忌法要	6月開催予定
◆盂蘭盆会法要	7月13日(水)
◆秋彼岸会法要	9月23日(金)
◆十夜法要	11月19日(土)



発行 / 梅窓院  
発行日 / 令和4年1月1日  
発行人 / 中島 真成  
編集 / 青山文化村  
住所 / 〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38

電話 / 03-3404-8447  
F A X / 03-3404-8107  
ホームページ / <https://www.baisouin.or.jp/>  
E-Mail / [jodo@baisouin.or.jp](mailto:jodo@baisouin.or.jp)  
題字 / 中村康隆元浄土門主 総本山知恩院第八十六世門跡